

「 命を守る行動 」

群馬県 渋川市立渋川北中学校 2年 岩田 志保

台風が多いこの季節、ニュースを見ていると土砂災害という言葉をよく耳にし、また、テロップでも地域ごとに注意喚起をしている。幸いなことにこの渋川という土地は、台風が直撃したりそれ程大きな被害がある地域ではないが、もし自分が住んでいる場所がテロップでながれたら、私たち家族はどんな行動を取るべきか考えてみた。そして考え始めたら、その行動を起こす前におこななければいけないことがあることに気付いた。それは次の3つである。

- ① 住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」かどうかの確認
- ② 家族が別々の場所にいた場合の集合する避難場所の確認
- ③ 災害時の緊急持ち出し袋の準備

①の土砂災害警戒区域に関しては、自宅に隣接した山林の一部がそれに当たる場所だった。ということは、万が一の場合は勇気を持った決断が必要になるかもしれない。

②の避難場所を調べてみたら、指定避難場所と指定緊急避難場所というものがあった。これにはいったいどんな違いがあるのだろうか。そして私たちはどちらを利用すればいいのだろうか。

内閣府防災情報のページによると『指定緊急避難場所』は、津波、洪水等による危険が切迫した状況において、住民等の生命の安全の確保を目的として住民等が緊急に避難する施設又は場所を位置付けるものであり、『指定避難所』は、避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設となっている」と定義されている。

これを踏まえて、私たち家族は次の事を決めた。大地震又は自宅付近で土砂災害が発生した場合、学校にいるときとまだ学校に近い場所にいるときは、親の迎えまで学校で待機。帰宅途中だけでも自宅に危険がなければ自宅に戻る。帰宅途中で被害が大きく緊急の避難が必要なときは、西部公民館に避難する。

③の緊急持ち出し袋はすでに母が準備してくれているが、私も一度確認した。私の家族は4人なので、2つのリュックと水、防寒具を持ち出す予定だ。リュックの中には、軍手、タオル、歯ブラシ、トイレトペーパー、ロープ、笛、ゴミ袋、アルコール消毒、ビニール手袋、敷物、アーミーナイフ、LEDライトなどあらゆる物が入っていた。貴重品が入っていなかったのも母にたずねると、貴重品をまとめてわかりやすい場所に置いておくとドロボウ被害にあうかもしれないので、避難時にかき集めるそうだ。それを聞いて私は、緊急時にそんな冷静な判断が出来るかどうか疑問である。実際に災害時の行動としてこれらのことを踏まえながら頭の中でシュミレーションしてみると、どのタイミングで避難するかが重要かつ難しく感じる。そのタイミングを誤らないために、土砂災害がどういう時に起こるのか、また起きやすい条件はあるのか調べてみた。

梅雨のように長時間にわたって雨が続いたときや、台風のように一度に大量の雨が降ることによって、地面が水分を多く含んで緩くなっている時。そして雨が止んだとしても地面が緩いままの状況で地震が発生した時に土砂崩れ、がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害が起こりやすいということだ。またそれらは、30度以上の傾斜がある斜面に起こりやすいそうだ。これらに加えて、前兆現象が起きる時もあるそうだ。普段きれいな水が流れている川が濁ったり、突然水位が下がったり、山の斜面に亀裂が生じたりなどが起こることがあるようだが、これら目に見えるものは、雨が降っている中、なかなか察知するのは難しいと思う。しかし、五感をフル活用して、「独特の土臭いにおい」「焼け焦げたようなにおい」など鼻でとらえることのできるものや、ブチブチという根が切れていく音や地鳴りなどの耳から得る感覚などで前兆現象を把握することも大事かもしれない。

今回この作文を書くことによって、今まで知り得なかった知識を身に付けることができたこと、家族とあらためて話し合い避難場所の確認と持ち出し品の準備ができたこと、土砂災害の危険性を知り、いざという時勇気を持って自分たちの命を守る行動を起こすことが大事だと知ることができたことなど、とても貴重な時間を持てたことに感謝したい。